

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	島根県飯石郡三刀屋町立三刀屋小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	1	2	3	14	20
児童数	48	45	47	52	40	44	4	280	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「確かな学力」を身につけた児童の育成 ～個に応じた指導の工夫～</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>1～6年生・算数</p> <p>児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため</p> <p>2～6年生・国語（情報活用単元）</p> <p>課題別の学習になるため、より個に応じた指導が必要であるため 学校図書館司書教諭の授業への関わり方の工夫が必要のため</p>
--

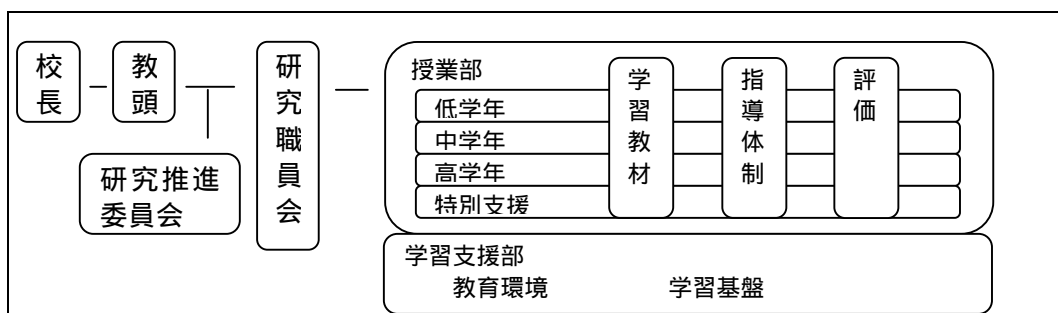
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ（研究の主眼）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力」を、「学んだ力」「学ぼうとする力」「学ぶ力」とし、それらの力を個に応じてつけるために、指導体制や指導方法の工夫、学習教材の開発、学力の評価を生かした指導方法の改善、学習支援の観点から研究していく。 <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>児童の実態に応じて、教材の開発・指導体制や指導方法の工夫・学力の評価を生かした指導の改善・学習支援などをしていけば、「学んだ力」「学ぼうとする力」「学ぶ力」に表される確かな学力を身につけた子どもが育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力を身につけた子ども」とは <ul style="list-style-type: none"> 「学んだ力」・・・知識理解・技能・思考力・判断力 基礎的・基本的な知識や技能を身につけた子ども 「学ぼうとする力」・・・関心・意欲・態度 学ぶ意欲を持った子ども 「学ぶ力」・・・課題発見能力・問題解決能力 自分で考え、判断し、表現しながら課題を解決していく子ども <p>ととらえる。</p> <p>さらに、</p> <p>は、お互いに関わり合いながら育っていものと考えて。そこで、 を育てるために、指導体制・指導方法の工夫、学習教材の開発、学力の評価を生かした指導の改善、学習支援という4つの窓口からいくつかの手だてを考え、実践していく。</p>
--------	--

平成15年度	<p>指導体制・指導方法の工夫</p> <p>習熟度別・課題別などの少人数指導、学級毎のTT指導を単元毎に組み合わせ、内容に応じたグループ編成をすることで個に応じた指導をする。</p> <p>司書教諭による個に応じた指導を、国語の情報活用単元で試み、情報活用の基本的な技能や知識を身につけるための司書教諭の関わり方を考える。</p> <p>問題解決的な学習過程を組み、自分で考えて課題を解決していくようにする。</p> <p>話し合う段階を重視し個人解決の結果を説明しあい、話し合い、自分たちで解決していく過程をとる。</p> <p>国語の情報活用単元では、調べる段階を重視し、司書教諭が適切に個人に指導できるようにする。</p> <p>学習教材の開発</p> <p>低学年・中学年・高学年毎に、つまずきにあわせた細かい指導のステップを考え、教材・教具を開発する。</p> <p>発展的な学習・補足的な学習を適切にとりいれる。</p> <p>情報活用のための補助的な教材を実態にあわせて工夫する。</p> <p>問題解決的な学習過程をとるための手引きを作成する。</p> <p>話し合う段階での手引きを作成する。</p> <p>を習熟度の段階に従って使いながら学習できるようにする。</p> <p>国語の情報活用単元では、調べる段階での手引きやヒントカードを作成する。</p> <p>学習評価を生かした指導の改善</p> <p>「レディネステストでコース選択・カウンセリングでコース決定・ミニテスト・カウンセリング・まとめのテスト」という一連の評価計画を立て、子どもの到達度や意欲を見て、指導に役立てる。</p> <p>学力テストを定期的実施し、伸びを見る。</p> <p>振り返りができるようなミニテストや振り返りカードの内容を考え、自分の力の伸びを客観的にみたり、友だちの伸びを共感的にみたりすることができるようにする。</p> <p>ポートフォリオ評価で、子どもが自分の学習の記録を残し、どんなところが向上したかわかるようにする。</p> <p>単元毎に、教師の評価とのずれをみていって、子どもの自己評価能力の向上を知る。</p> <p>学習支援</p> <p>学習経過の掲示の工夫をする。（各教室・少人数教室）</p> <p>少人数教室・校舎の知的環境を整備する。（ワークスペース・渡り廊下）</p> <p>じょうほう館の整備をする。</p> <p>21 情報活用の年間指導計画を立てる。</p> <p>22 スクールカウンセラーなどを活用した児童理解の体制を確立する。</p> <p>23 ピアサポートなどを生かした学習集団作りの年間指導計画を立てる。</p> <p>24 豊かな心と集中力を育成するための時間の確保と活動の工夫をする。</p> <p>（朝自習、補充・発展、司書教諭の授業時間、少人数指導のための打ち合わせ時間）</p> <p>25 保健室機能を生かした健康相談活動の充実</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>「確かな学力」を、さらに細かくとらえ、お互いの関連をふまえながらそれぞれの力を付けていくためにはどうしたらよいかを指導体制・指導方法、教材開発、評価、学習支援の視点から研究していく。特に、客観的な評価についてより深く実践研究する。</p> <p>研究の見通し</p> <p>「確かな学力」についてより細かくとらえ、それぞれの関わりを明らかにし、個に応じたのばしていくような教材の開発・指導体制や指導方法の工夫・学力の評価を生かした指導の改善・学習支援などをすれば、「確かな学力」を身につけた子どもが育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>15年度に準じ、研究内容の精選・重点化を図る。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

指導体制・指導方法の工夫について
 特に基礎コースの子どもの理解度が増し、アンケートでは学習への意欲を増したと答える子どもが多かった。また、コースに分けた場合に自分にあった問題や学習進度で学習ができるという子どもが多かった。
 少人数のため、落ち着いて友達の意見を聞いたり発表したりできた。
 TTでの指導では、T2によって個々のつまづきがとらえやすく、指導も細かくできた。
 司書教諭によって資料が豊富に集められ、子どもの興味を増し、調べ学習に効果的だった。
 学級活動での司書教諭の指導が国語の時間に生きて、より深まりのある学習になった。

学習教材の開発
 コースにあわせた教具・ワークシートが理解しづらい子どもに有効で、意欲も増した。
 算数的活動で興味を持続させることができた。
 繰り上がりのある足し算、繰り下がりのある引き算でタイムレースを取り入れ、計算力が身に付いた。(発展)
 司書教諭作成の情報資料リストが子どもの資料探しに役立った。
 情報収集の仕方や記録カードの書き方などのヒントカードにより子どもが必要なときに参考にしながら調べることができた。パワーポイントによる図鑑の使い方の資料も低学年にわかりやすかった。

評価を生かした指導の改善
 レディネステストを見ながら親子で話し合ったことがコース分けのよい参考になった。
 コース選択をすることが、主体的に取り組む姿勢を育てることにつながった。
 評価(ミニテスト・振り返りカード・観点別評価表など)の工夫により、それらを生かした指導ができるようになりつつある。
 100マス計算の記録ののびにより、自分の伸びを実感できた。
 コース選択の際に、自分の実態にそったコースの選択ができるようになりつつある。また、友達によさも振り返りカードに書く子が増えた。
 ファイルを家に持ち帰ることにより、家の人の意識が高まり、コメントをもらうことで子どもも意欲を持つことができた。

学習支援
 チャレンジルームの掲示により、前の単元での掲示や多学年の掲示が学習に役立った。また、興味を持ち、楽しんで見ていた。
 シールの分類、マップ、調べ学習の流れ、絵本のコーナー、パンフレットの整備などに全職員で取り組み、じょうほう館の設備が充実してきた。
 読み語り、朝読書の時間を設けたことにより落ち着いて学習に取り組めた。
 学習支援の体制が少しずつ充実してきた。

2. 今後の課題

指導体制・指導方法の工夫
 学年を3つに分ける・学級を2つに分ける、それぞれのよさを再確認し、よりよい方法を考える必要がある。
 教室の確保を考えたが、なかなか固定して使えないので、掲示などの利用に不便があった。
 T1 T2の役割について、さらに明確にする必要がある。
 問題解決に時間をかけすぎ、内容の定着の時間が少なくなった為、重点を置く単元を計画的に考えておくとよい。
 話し合いでの発表者が限られたり、グループでの話し合いが不十分だったりしたので、他教科でも話し合いの力を付けていくことが大事である。
 国語では、資料を探す段階で時間がかかりすぎ、調べる時間が少なくなった。単元によってどちらに重点を置くか、考えておく必要がある。

教材の工夫

コースにあわせた教材について、各コースの担当者同士での情報交換が不足していたので、段階にあわせた教材を使うよう、情報交換が必要だった。(基礎コースでは、さらに個に応じた教材が必要だった。視覚に訴えるものや一人一人使える物も効果的。)

単元に応じて、発展・補充の内容をはっきり押さえておくこと。

他教科でも、話し合いの手引きなどを使った指導をすると話し合いの技能が定着する。

学習評価を生かした指導の改善

評価基準をはっきりさせ、共通理解しておくことが大切。

時間内に振り返りカードを書けないことがあった。

振り返りカードの観点(項目)をより客観的・具体的にすること。

学習支援

さらに学習効果のある掲示の工夫をしたい。

掲示板をもっと増やし、興味を引く掲示や物をもっとおきたい。

情報館にパソコンコーナーを考えたい。

ピアサポートの方法について改善の必要がある。

担当者の打ち合わせの時間が確保してあるが、なかなかできなかった。確実にできる工夫が必要である。

学力等把握のための学校としての取組

学力テスト(NRT)

目的・算数においての前年度の学力を客観的に知り、今年度の研究実践を行った後、来年度の初めにもう一度行い、成果を客観的に明らかにするため

時期・15年度7月・16年度4月

アンケート(児童対象)

目的・算数における少人数指導への児童の意識を知り、今年度実践した児童の受け止めや成果、課題を知り、今後生かすため

時期・15年度1月・16年度7月・16年度12月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

三刀屋町教育研究会公開授業(12月3日・三刀屋小学校・町内各幼稚園・小学校・中学校対象)

HPでの研究計画や成果の発表の予定(今年度末)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下 13~18学級 25学級以上	7~12学級 19~24学級	
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他	
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作 理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有 無	